

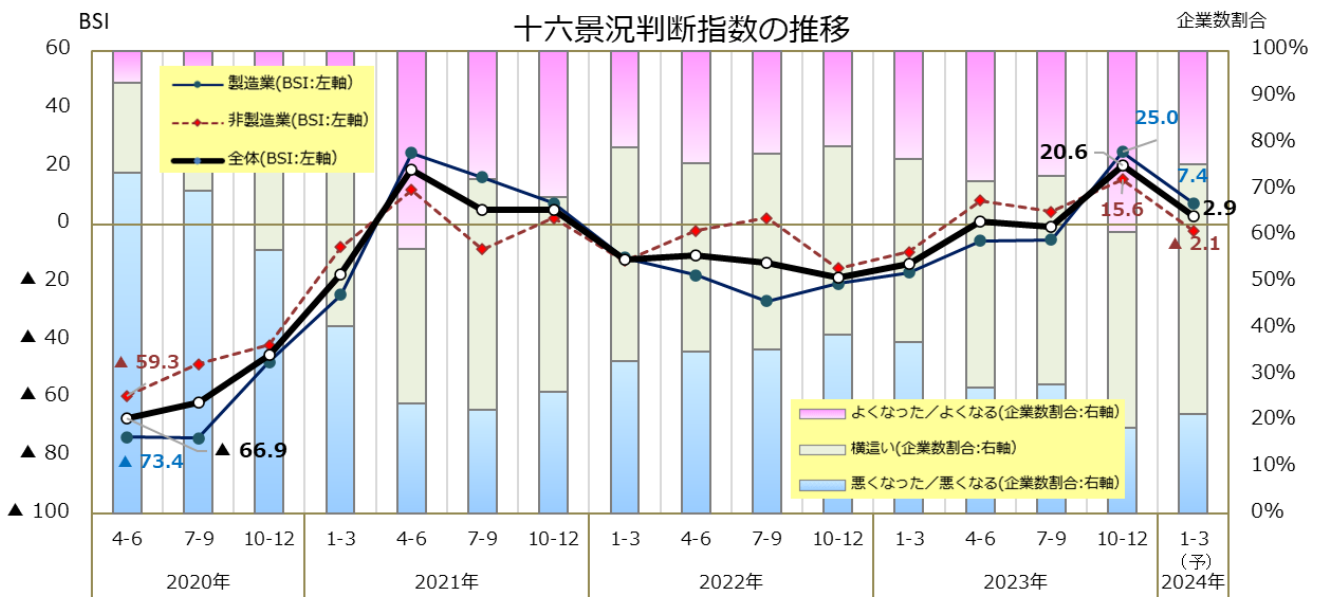
# 第205回 東海地区企業動向調査

『2023年10~12月期 十六景況判断指数 調査報告』

- ① 十六景況判断指数は20.6（前期比21.5 増）と大きく上昇した。来期は2.9（今期比17.7 減）と大きく反転低下する見込み。
- ② 経営上の最大の問題点は、製造業では「仕入商品・原材料高」（37.1%）が9期連続の1位。非製造業では「求人難」（30.9%）が3位から1位に浮上。
- ③ 設備投資を実施した企業の割合は40.1%（同2.0 増）と4年ぶりに4割を超え、堅調に推移した。

### 調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2023年12月1日~15日
3. 調査期間 2023年10月~12月期 実績（見込み）  
2024年1月~3月期 予想
4. 回答状況 有効回答数204社（岐阜県、愛知県の企業600社、有効回答率34.0%）
5. 本調査の経緯 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと



**\* 十六景況判断指数**

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

**\* BSI (Business Survey Index)**

各項目につき、前年同期と比べて好転(増加・上昇・容易・過大)と回答した割合から、悪化(減少・低下・困難・不足)と回答した割合を差し引いて求めた指標

# 1. 今期実績と来期予想

## (1) 十六景況判断指数

十六景況判断指数は、前期の▲0.9 から今期は20.6(前期比 21.5 増)と大きく上昇し、再びプラスに転じた。

業種別にみると、製造業は25.0(同 30.3 増)、非製造業は15.6(同 11.2 増)と特に製造業が大きく上昇した。エネルギー価格の上昇や物価高の影響は続いているが、自由コメント欄には「自動車生産において足かせとなっていた半導体の供給が安定しつつあり減産体制が解除された(岐阜・プラスチック・その他製造業)」、「需要が好調(岐阜・輸送用機械器具)」といった生産・需要の回復に関する声が寄せられ、また、円安の恩恵を受ける輸出企業にもけん引され、景況感が大きく上昇したとみられ

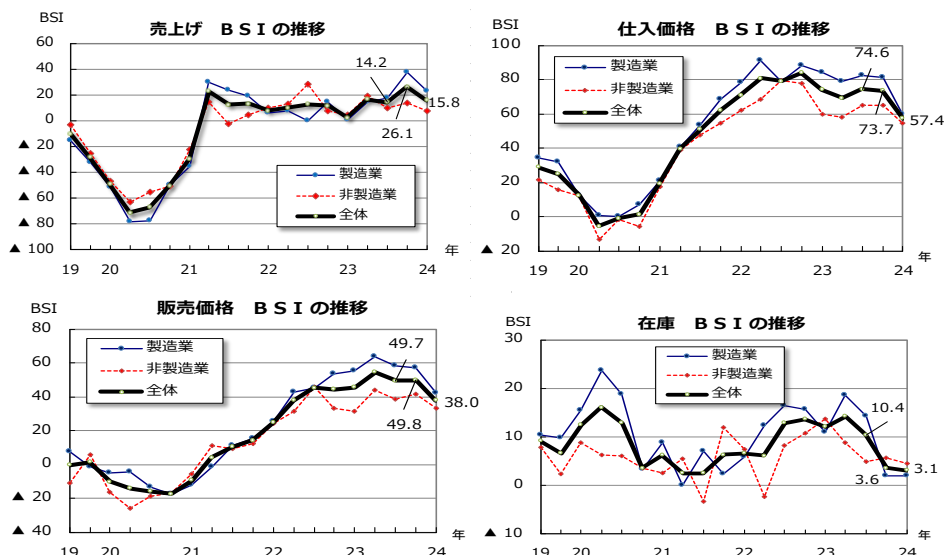
る。

来期の十六景況判断指数は2.9(今期比 17.7 減)とプラス水準は維持するものの、大きく反転低下する見込みである。

業種別にみると、製造業は7.4(同 17.6 減)、非製造業は▲2.1(同 17.7 減)といずれも大きく低下する見込みである。

賃金上昇が物価高に追いつかず、実質賃金の減少が続くなか、買い控えや需要の減少といった個人消費への影響が懸念されることや、円安による更なるコスト高、海外経済の減速懸念などが景況感の下振れ要因になっているとみられる。

## (2) 各項目のBSIの推移



売上げ BSI は26.1(前期比 11.9 増)と上昇し、来期は15.8と低下する見込みである。

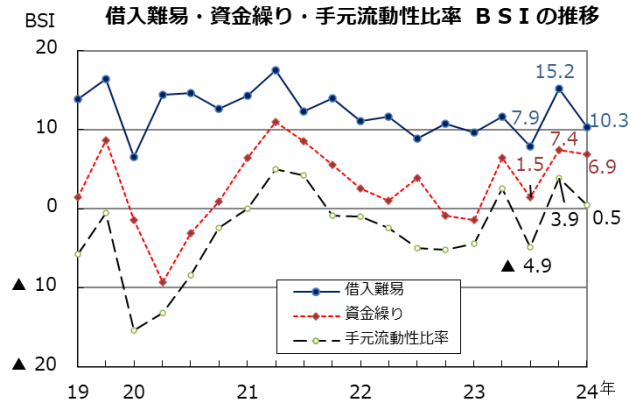
仕入価格 BSI は73.7(同 0.9 減)とほぼ横ばいで推移し、来期は57.4と低下する見込みである。

販売価格 BSI は49.8(同 0.1 増)とほぼ横ばいで推移し、来期は38.0と低下する見込みである。

在庫 BSI は3.6(同 6.8 減)と低下し、来期は3.1とほぼ横ばいで推移する見込みである。

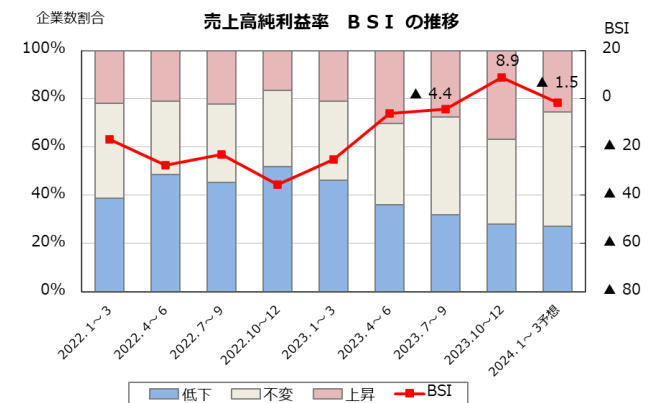
### (3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易-困難) は 15.2 (前期比 7.3 増)、資金繰り BSI (楽-苦しい) は 7.4 (同 5.9 増)、手元流動性比率 BSI (上昇-低下) は 3.9 (同 8.8 増) といずれも上昇した。来期の借入難易 BSI は 10.3、資金繰り BSI は 6.9、手元流動性比率 BSI は 0.5 といずれも低下する見込みである。



### (4) 売上高純利益率

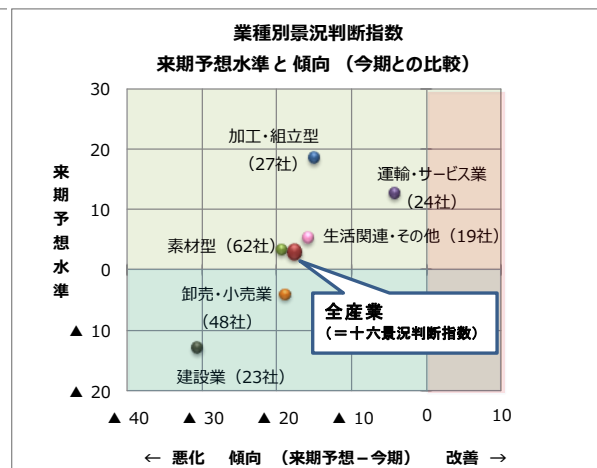
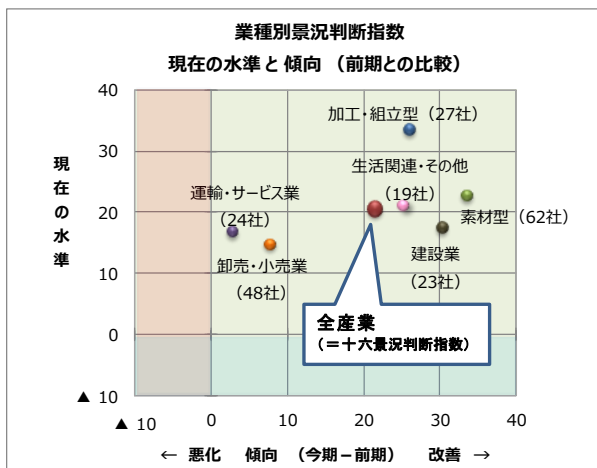
今期の売上高純利益率 BSI は 8.9 (前期比 13.3 増) と大きく上昇した。上昇要因は「売上げ増加」が最も多く 89.0%、次いで「原材料・仕入商品安」が 9.6%だった。来期は▲1.5 と低下する見込みである。



## 2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期はすべてのグループで BSI (よくなった-悪くなった) が前期比改善し、プラスとなった。

来期はすべてのグループで BSI が今期比悪化し、卸売・小売業と建設業ではマイナスとなる見込みである。



#### 注) 【製造業の分類】

素材型： 木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

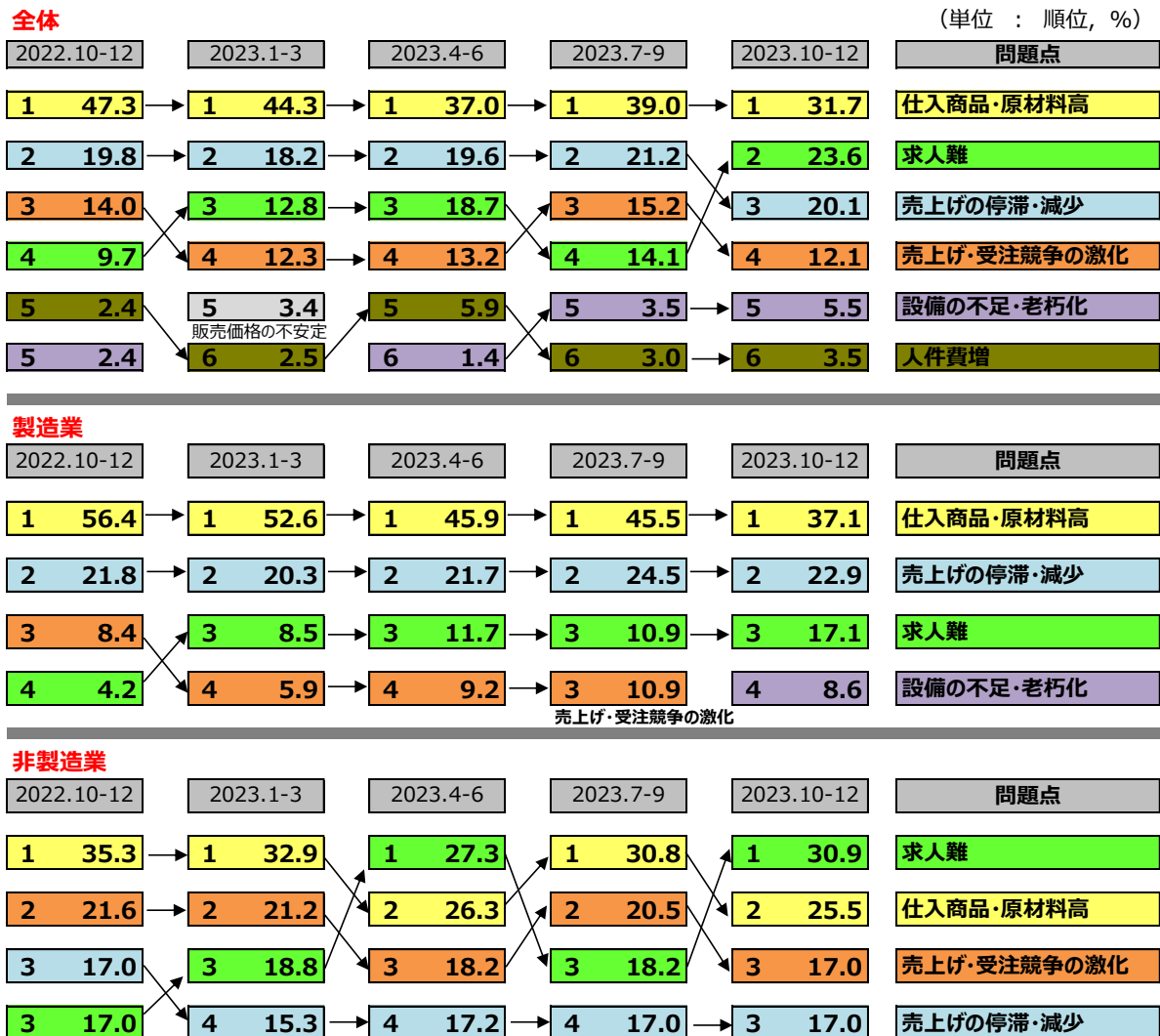
加工・組立型： 一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

生活関連・その他： 食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

※「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。

### 3. 当面する経営上の最大の課題点

当面する経営上の最大の課題点（単一回答）順位推移



当面する経営上の最大の課題点を尋ねたところ、「仕入商品・原材料高」と回答した割合が 31.7%で最も高く、9 期連続の 1 位となった。業種別で見ると、製造業の上位 2 項目は 9 期連続で変動がなく、「仕入商品・原材料高」が 37.1%で 1 位、「売上げの停滞・減少」が 22.9%で 2 位だった。

一方、非製造業の 1 位は「求人難」で 3 位から浮上し 30.9%、2 位は前期 1 位だった「仕入商品・原材料高」で 25.5%だった。

自由コメント欄では「過年度からの原材料高騰が高止まりのままで収益を圧迫しているため、売上が増加しても利益が伸び悩んでいる。(岐阜・建設業)」、「コロナ前の業績まで戻っていない現状で、原料高、円安、最低賃金アップは非常に厳しい。(愛知・繊維工業)」、「円安で物価高が続き景気見通しが不透明である。(愛知・木材・木製品)」といった物価高や円安に苦慮する声が複数寄せられた。

## 4. 設備投資

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が 44.9%（前期比 2.0 ㊦減）とやや低下しつつも高水準を維持したほか、非製造業が 34.7%（同 7.7 ㊦増）と上昇し、全体では 40.1%（同 2.0 ㊦増）と堅調に推移した。全体の設備投資実施割合が 4 割を超えるのはバブル期と同水準であり、2019 年 10～12 月期以来、4 年ぶりとなった。需要増への対応やコロナ禍で見送られていた設備投資が実施されたとみられる。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が

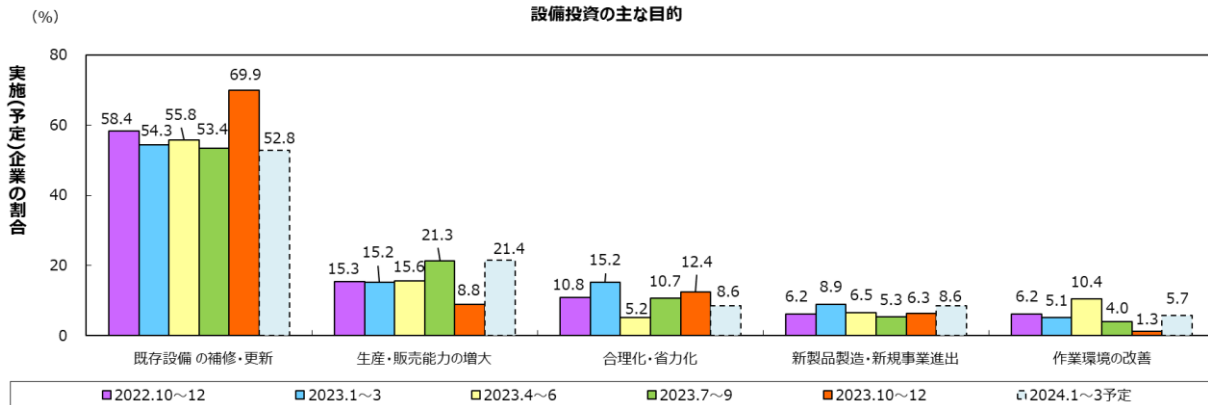
設備投資実施状況

(単位：%，百万円)

	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額
2021 7～9 実績	36.2%	7,827	66	40.9%	6,802	102	30.5%	1,025	20
2021 10～12 実績	37.6%	6,649	54	44.3%	5,623	76	28.4%	1,026	21
2022 1～3 実績	34.9%	4,175	67	40.2%	2,619	67	28.7%	1,556	68
2022 4～6 実績	29.6%	5,626	97	32.5%	4,158	116	26.1%	1,468	67
2022 7～9 実績	35.5%	6,426	55	42.7%	5,248	76	26.9%	1,178	25
2022 10～12 実績	31.5%	8,521	64	34.4%	6,223	84	27.5%	2,298	39
2023 1～3 実績	38.3%	11,271	157	45.8%	6,486	127	27.9%	4,785	228
2023 4～6 実績	33.2%	10,680	148	40.0%	6,871	146	25.5%	3,808	152
2023 7～9 実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023 10～12 実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024 1～3 予定	35.2%	8,861	67	43.4%	7,287	101	25.8%	1,574	26

43.4%（今期比 1.5 ㊦減）、非製造業が 25.8%（同 8.9 ㊦減）といずれも低下し、全体では 35.2%（同 4.9 ㊦減）と足踏み感がみられた。

設備投資の主な目的



今期の設備投資の主な目的は、引き続き 1 位が「既存設備の補修・更新」で 69.9%（前期比 16.5 ㊦増）と大きく上昇し、現状維持のための投資が積極的に実施された。一方、前期 2 位だった「生産・販売能力の増大」が 8.8%（同 12.5 ㊦減）と 3 位になり、生産性向上に資する前向きな設備投資は低調だった。

来期は引き続き「既存設備の補修・更新」が 1 位で 52.8%（今期比 17.1 ㊦減）、「生産・販売能力の増大」が 2 位に戻り 21.4%（同 12.6 ㊦増）といず

れも前期の水準に戻る見込みである。自由コメント欄には「半導体業界の低迷によって、設備投資計画に遅延・先送りがあり、自動車の EV 化に伴う新たな設備投資の実施が遅れている。（岐阜・一般機械器具）」、「世界の半導体需要の低迷が、予測より長期化し先行きが不透明な状況である（岐阜・電気機械器具）」などの声があり、設備投資意欲は高まっている一方で、先行き不透明な半導体業界の影響が設備投資計画にも影を落としている。

## 5. 雇用

過去1年間の雇用人員の変化 BSI（増加－減少）は、正社員が13.2（前期比13.7 増）と大きく上昇し、パート・臨時雇用者が0.0（同4.4 増）と低下した。

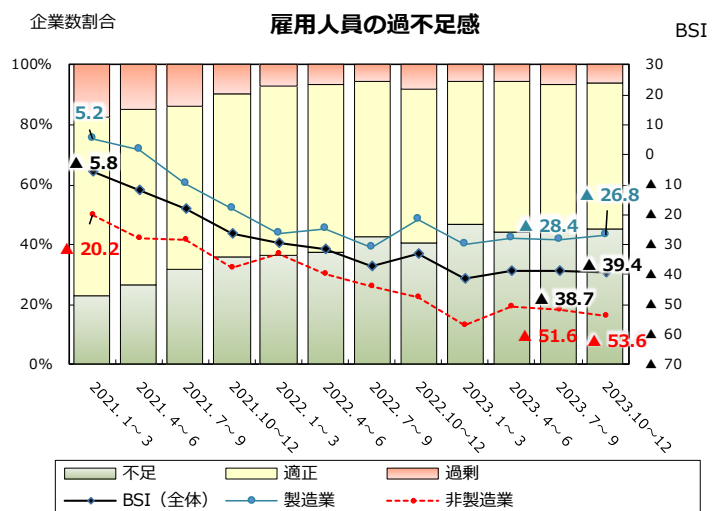
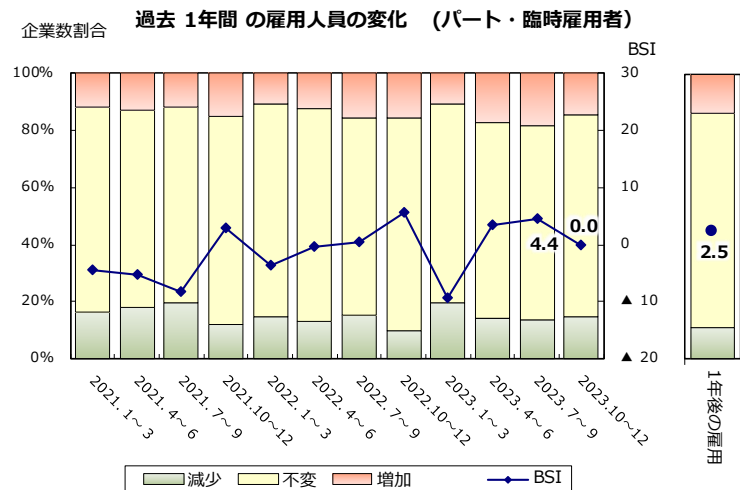
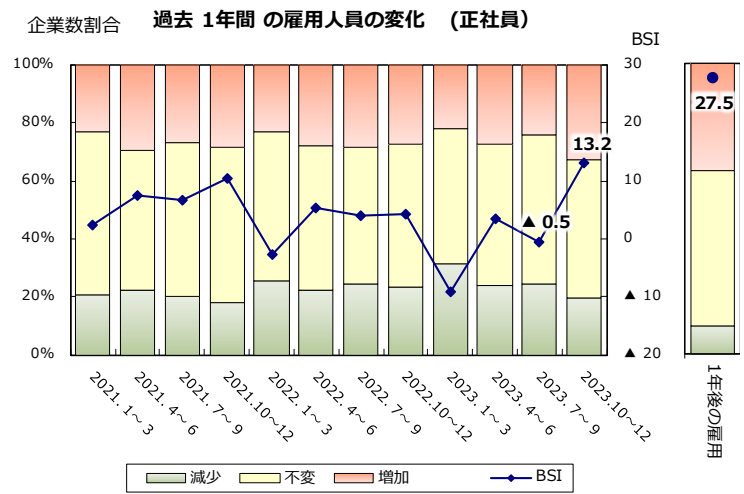
また、1年後の雇用人員の変化 BSI は、正社員が27.5、パート・臨時雇用者が2.5と、正社員の増加を見込む企業が多かった。

雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲39.4（前期比0.7 増）と低水準で横ばいに推移している。業種別にみると、製造業が▲26.8（同1.6 増）とやや上昇、非製造業が▲53.6（同2.0 増）とやや低下した。

自由コメント欄では「人材不足が最大の懸念材料。地元での人材確保が非常に厳しい状態。（岐阜・運輸業）」など人手不足や求人難について苦慮する声が複数寄せられた。また、「上場企業の新卒採用が活発化し、中小企業の新卒採用が厳しさを増している状況にある。優秀な人材を確保するためには、賃上げや福利厚生の実施、働き方改革を進めていく必要がある。（岐阜・小売業）」と危機感を持って対策を講じている企業もみられた。

人手不足感は依然として強い状態が続くなか、今年4月には建設業や物流・運送業で時間外労働の上限規制が適用される「2024年問題」に直面するため、荷主企業も含めた幅広い業種への影響が懸念される。

（研究員 藤木 由江）



## 6. Data

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	108	53.1
食料品	6	2.9
繊維工業	4	2.0
衣服・その他の繊維製品	3	1.5
木材・木製品	5	2.5
家具・装備品	3	1.5
紙・紙加工品	4	2.0
出版・印刷	3	1.5
化学工業	3	1.5
窯業・土石製品	16	7.8
鉄鋼・非鉄金属	10	4.9
刃物・金属製品	10	4.9
一般機械器具	8	3.9
電気機械器具	3	1.5
輸送用機械器具	16	7.8
プラスチック・その他製造業	14	6.9
非製造業	96	46.9
鉱業	1	0.5
建設業	23	11.2
卸売業	36	17.5
小売業	12	5.9
運輸業	10	4.9
サービス業	14	6.9
合計	204	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	14	6.9
1,000万円以上～3,000万円未満	74	36.3
3,000万円以上～5,000万円未満	42	20.6
5,000万円以上～1億円未満	48	23.5
1億円以上	26	12.7
合計	204	100

従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	16	7.8
10人以上～50人未満	71	34.9
50人以上～100人未満	46	22.5
100人以上～300人未満	50	24.5
300人以上～500人未満	10	4.9
500人以上	11	5.4
合計	204	100

地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	133	65.2
愛知県	71	34.8
合計	204	100

十六景況判断指数の推移

四半期	2019.7~9	2019.10~12	2020.1~3	2020.4~6	2020.7~9	2020.10~12	2021.1~3	2021.4~6	2021.7~9	2021.10~12	2022.1~3	2022.4~6	2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3	2023.4~6	2023.7~9	2023.10~12	2024.1~3予想
良くなった	16.8	13.9	8.4	6.8	8.3	12.0	23.4	42.7	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	24.5
横這い	50.0	48.1	39.0	19.5	22.0	31.1	36.1	33.4	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	53.9
悪くなった	33.2	38.0	52.6	73.7	69.7	56.9	40.5	23.9	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	21.6
十六景況判断指数	▲ 16.4	▲ 24.1	▲ 44.2	▲ 66.9	▲ 61.4	▲ 44.9	▲ 17.1	18.8	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	2.9